

The Vision of
St. Christopher

020933-000-0

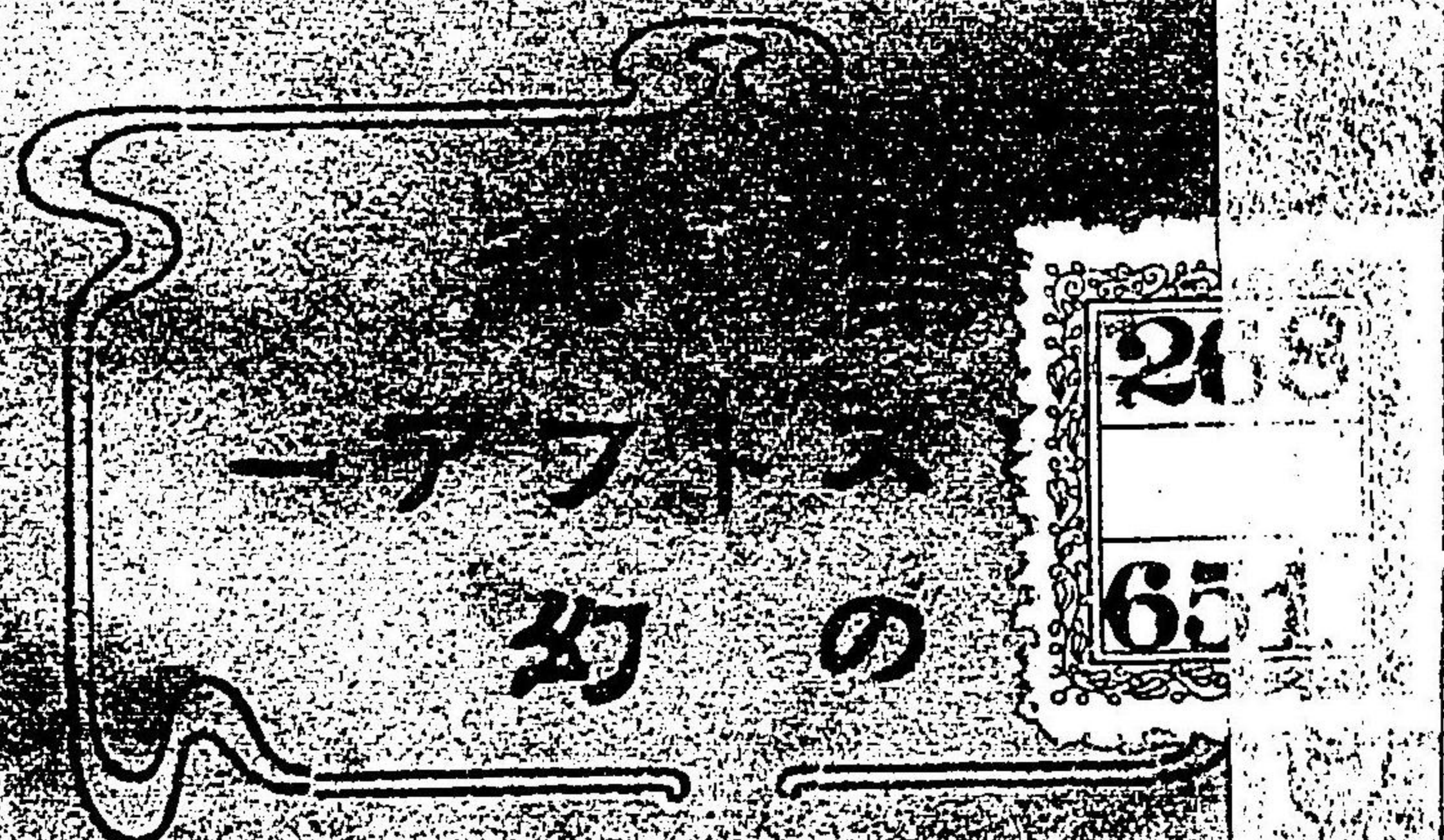
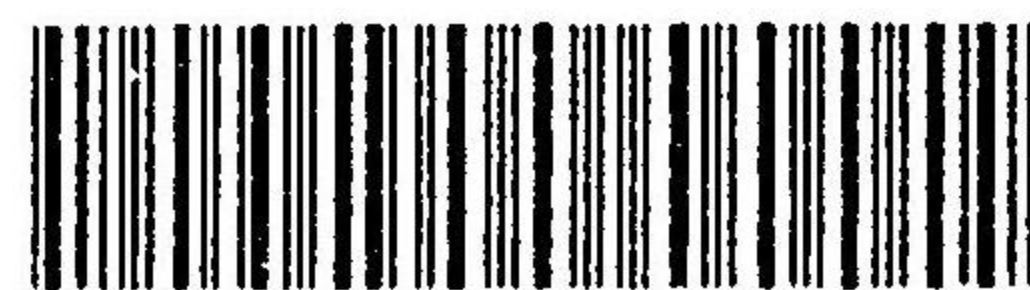
特51-117

聖徒クリストファーの幻

イ・ライアソン/訳

M44

ABI-0783





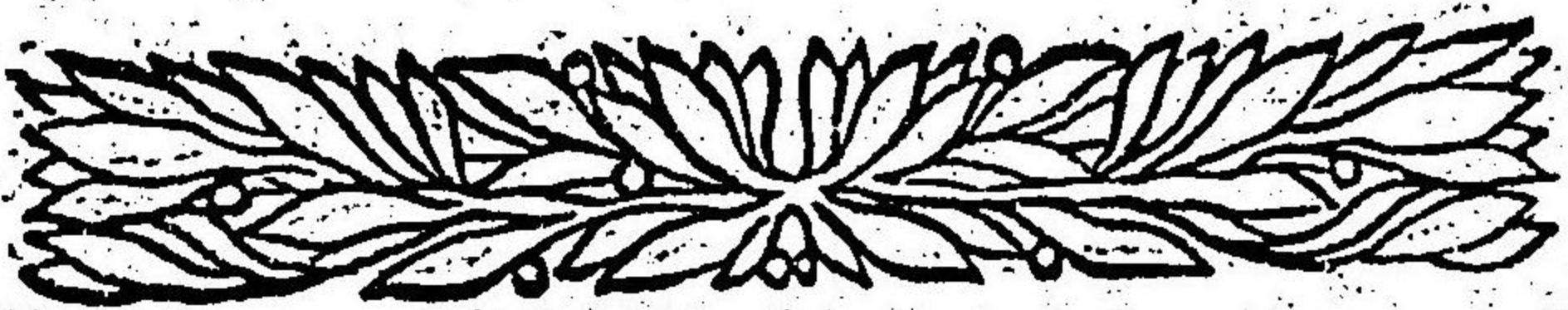
聖徒クリストファーの幻

の美はしい物語の數ある中にも、
暗夜の如き中古の空に、星と輝く
聖クリス

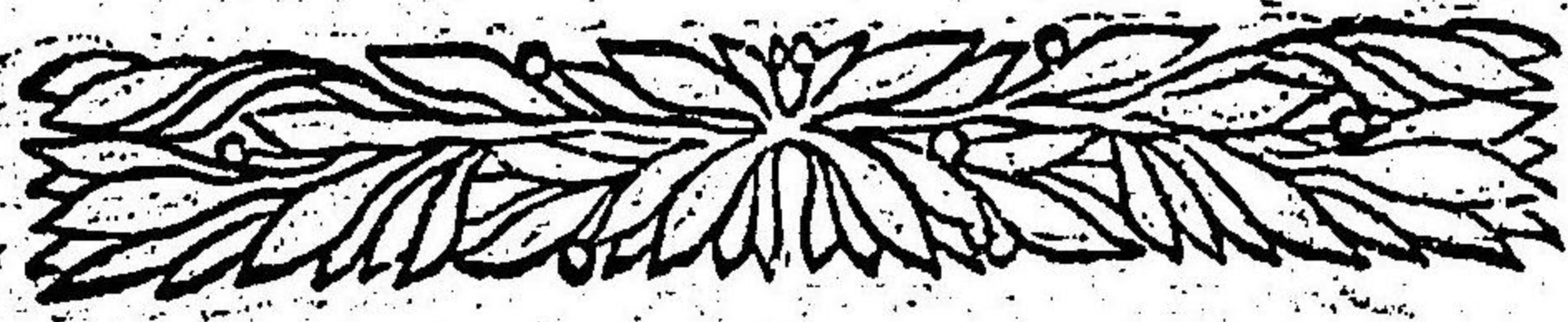
トファーの物語ほど幾百年の後までも、
人に力ある教訓と、大なるなぐさめとを
聞

明治 4.12.21 内交
諸聖徒

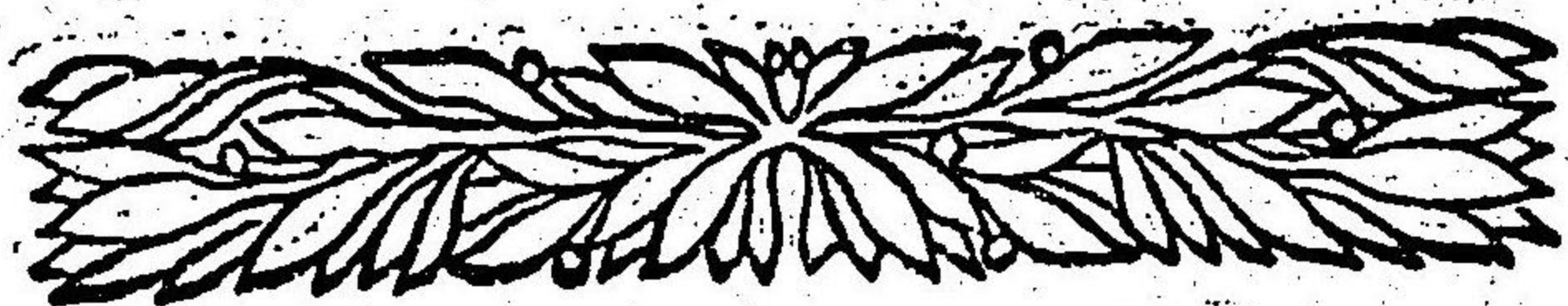




與ふるものはありますまい。而して往昔牧
 者等がベツレヘムの野で、夜間其の羊群を
 守つて居た時に、キリスト御降誕の託宣を
 受けたと同様、聖徒クリストファーも毎日
 の職分にいそしんで居る間に、見えざる神
 の幻を目のあたり見るここが出来たのであ
 ります。



丁度ベツレヘムの牧者達と同じ國に、オ
 フロロと名くる青年がありました。また神
 を知らずキリストを知らず、自分が人並勝
 れて骨格逞ましく、非凡の膂力あるを恃み、
 ごろぞして此世の中で一番權勢ある君主に
 事へんものと思ひ立ち、天下を流浪して、
 彼の君此の王と事へて見ましたが、世界一

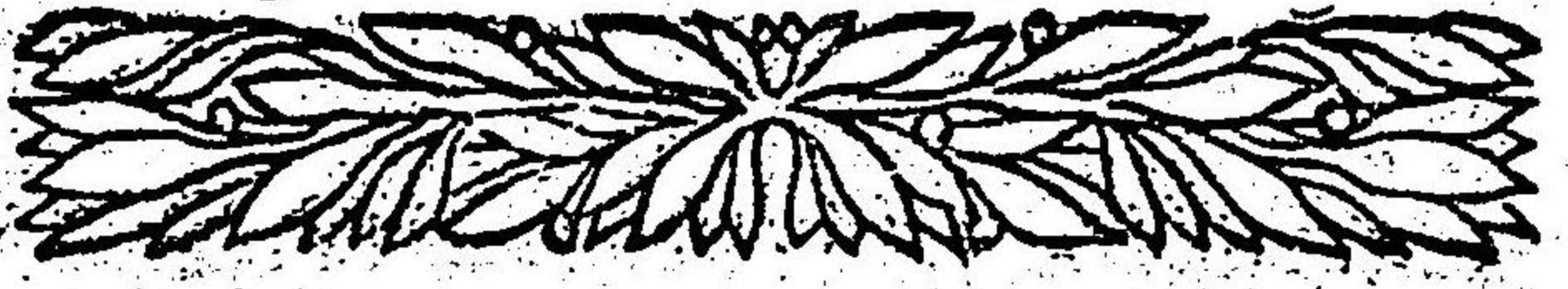




の勇者と思つた王も、も一段強い敵の前に
 は敗北を取る事もあり、兎角理想通りの君
 主に遭ふことが出来ませんので、殆ど失望
 して居りました。
 其折しも、ふとキリストイエスの事を聞
 き込みました。而も此のイエスといふ方は、
 勝つ事を知つて、負けることを知らぬ天下

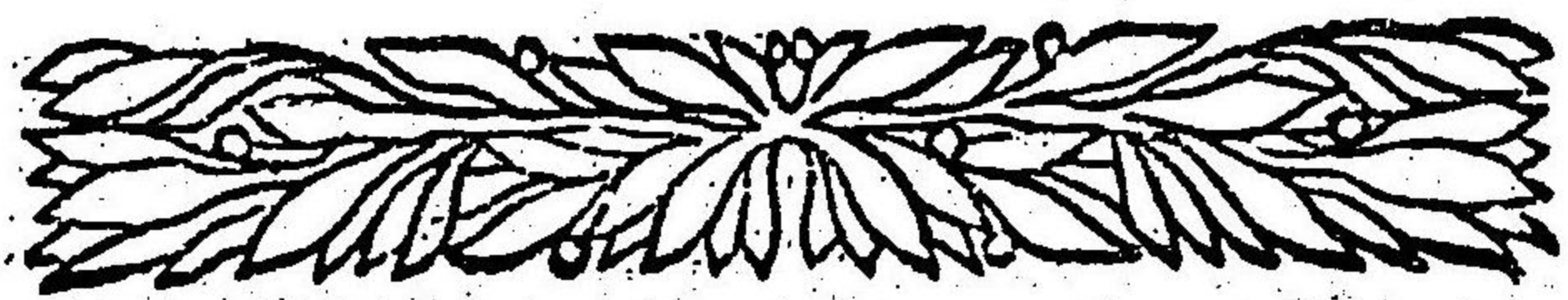


無敵の大勇者と聞きましては、片時も猶豫
 が出来ません。是非とも此の王様に逢はね
 ばならぬと、また四方を経歴つて、一
 生懸命に探しましたが、ごうしても遭ふ事
 が出来ませず、折角の立志も畫餅になりま
 したので、オフエは全く失望して、もう
 其の事を断念し、残る生涯を献げて、少し





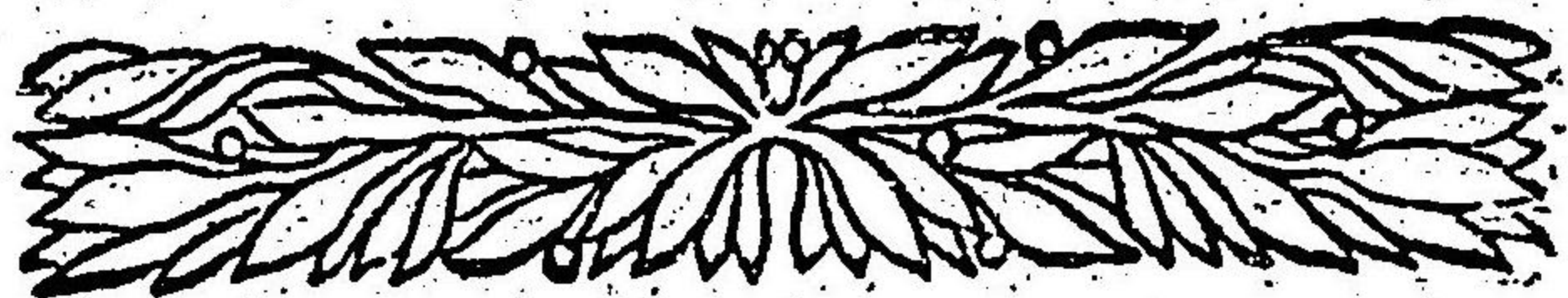
でも世の人の爲に盡さうと思ひ立ち、旅人の往來の多い或名高い激流の邊に庵をしつらへ、自分の非凡の力を用ひて其の河を渡る人々を助けることを専ら其の務として炎熱燬くが如き夏の日も、寒風肌を劈く冬の日も、倦まず撓まず働いて居りました。ところが或日の事、大雨の爲に、水量が



著しく増して、如何に大力のオフエロも、今日許りは到底渡れまいと思つて居た其の途端、何處からともなく、可愛い小兒の聲で、

「オフエロ、オフエロ」

ご自分の名を呼ぶ様に思はれました。時は早や夕暮で、濁流が僅に白いばかり、四邊



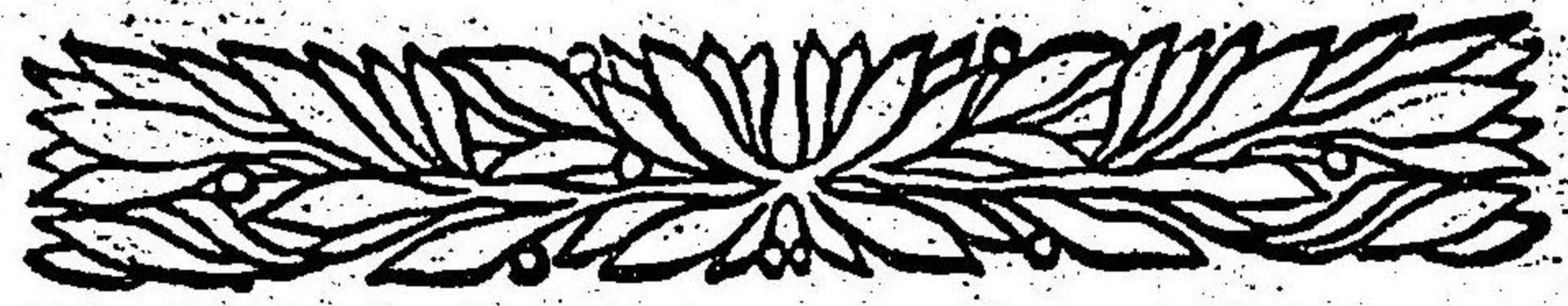


は一面に霧がかよつて居るに、誰が呼ぶの
 であらうかと聲する方に行つて見ましたと
 ころが、一人の小さい兒が、此の大水では
 渡るにも渡れないとて、切りに泣いて居り
 ました。それが如何にも可愛相なので、渡
 して上げようよ、ヤナラ其の小兒を肩にの
 せ、大膽にも激流の中に踏み込みましたが、



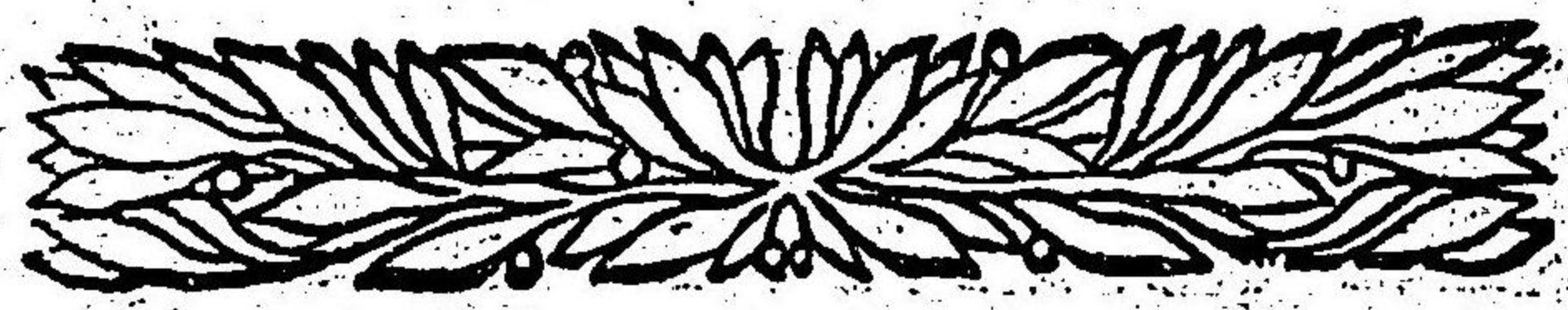
水の瀬真に急で、川の中程までまゐりまし
 た頃には、實に必死の勢を出しても覺束な
 い程。しかも負ふた小兒は、如何したもの
 か、歩一步に重くなつてきて、後には宛然
 大きなく石でも脊負つて居るかの様に思
 はれました。いかに大風雨の時でも、今日
 迄一度として失敗した事のない、大力な才





フエロも、今日といふ今日は、
 持ち耐へる事が出来ないで、遂に急流に足を奪はれ、一時はアハヤ流されようとしましたが、一生懸命になつて、ヤツト再び足場を得、非常な苦心で歩行を運むで行きました。しかし愈々力盡きて早や一步も進む事が出来なくなつた時に、オフェロは不思議

十



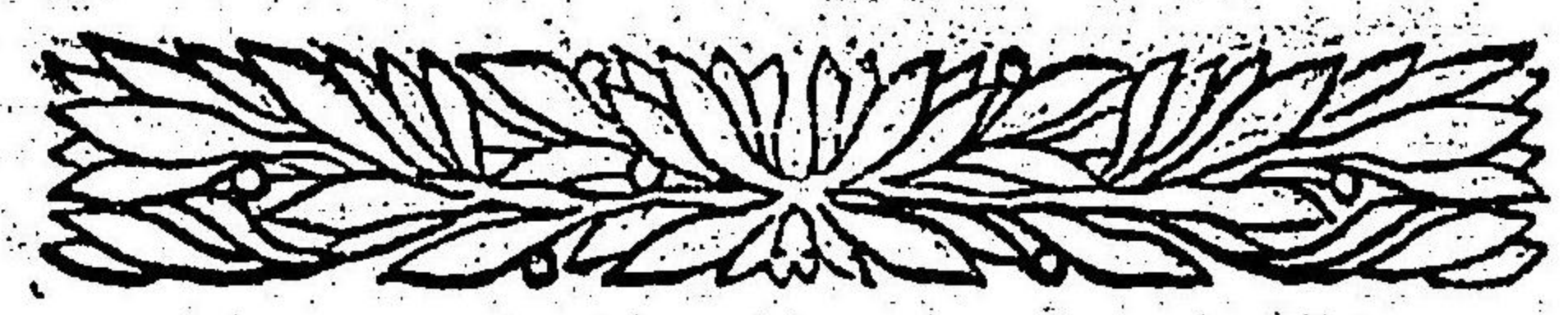
議に充ちた目をみはつて、其負ふた小児を見上げ、あへく息と共に切れ切れに、「御身は一体誰ですか、全世界を脊負つても、是程重くはあるまいに」と申しますと、其の小児は「全世界ごころか、お前は全世界の造主を負ふて居るのだ、自分はお前は長年捜して

十一

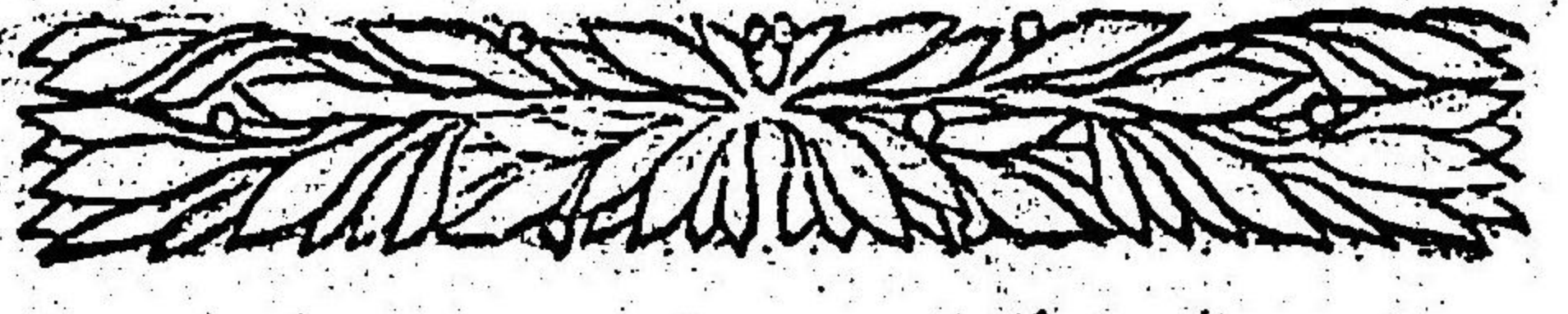


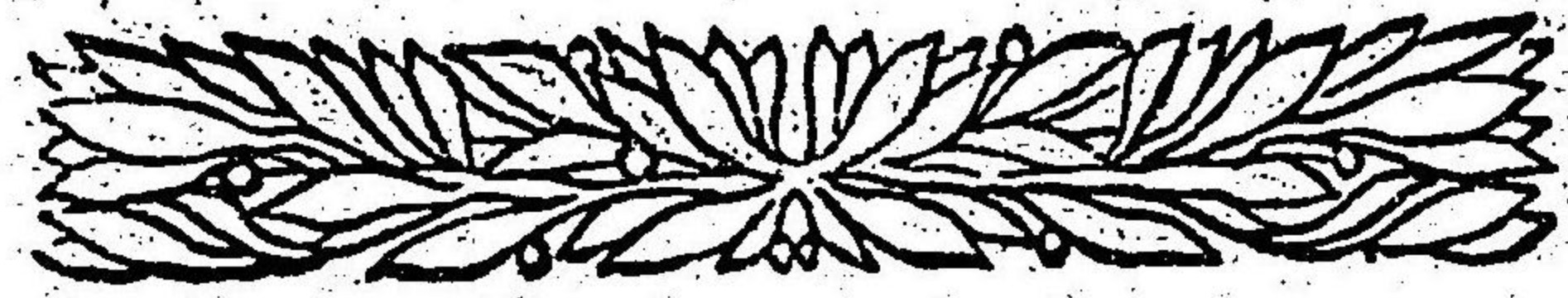


居た、キリストイエスであるぞ」
 ご申されました。此の言を聞くや否や、新
 しい勇氣がオフエロの全身に満ち溢れ、流
 石に烈しかつた洪水も其勢を失つた様に、
 何の苦もなく彼岸に着く事が出来ました。
 其處で、恭しく、脊負つて來た肩の小兒を
 下しました。其の時は早や以前の小兒で

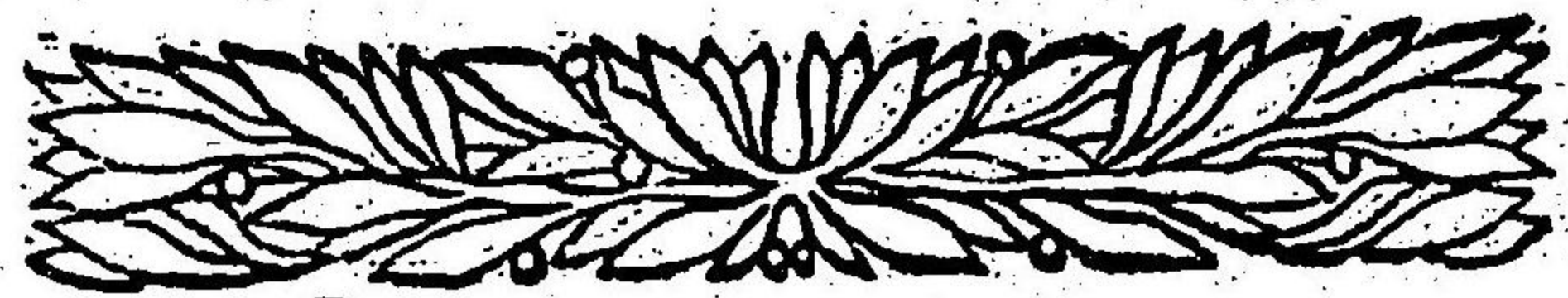
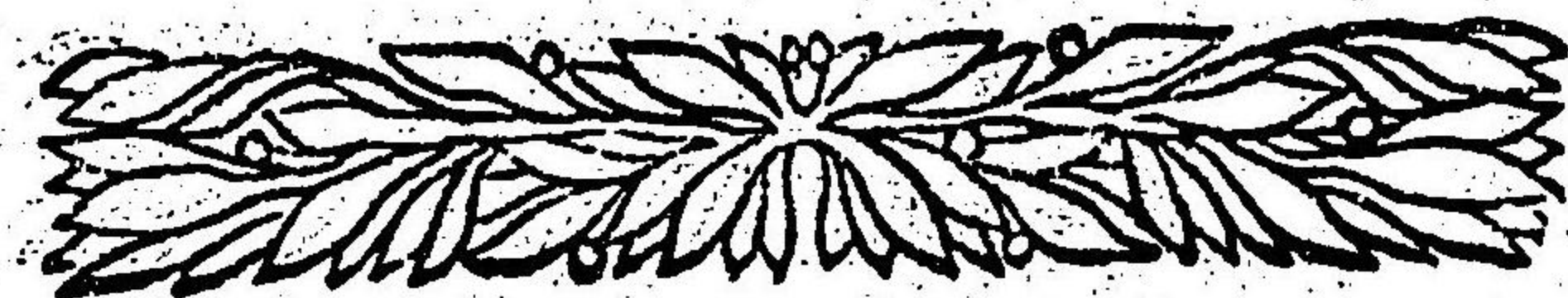


はなく、天と地との主宰なるキリストが、
 オフエロを祝せんとして聖手を擧げて立ち給
 ふので、オフエロは喜悅と敬虔の念に充ち
 て、其の聖前にひれ伏しました。此くして、
 荷擔ぎのオフエロは知らずして脊負つた重
 荷の中に、聖なる主を見出し、ましたので、
 新たに名をクリストフ、一クリストを負ふ

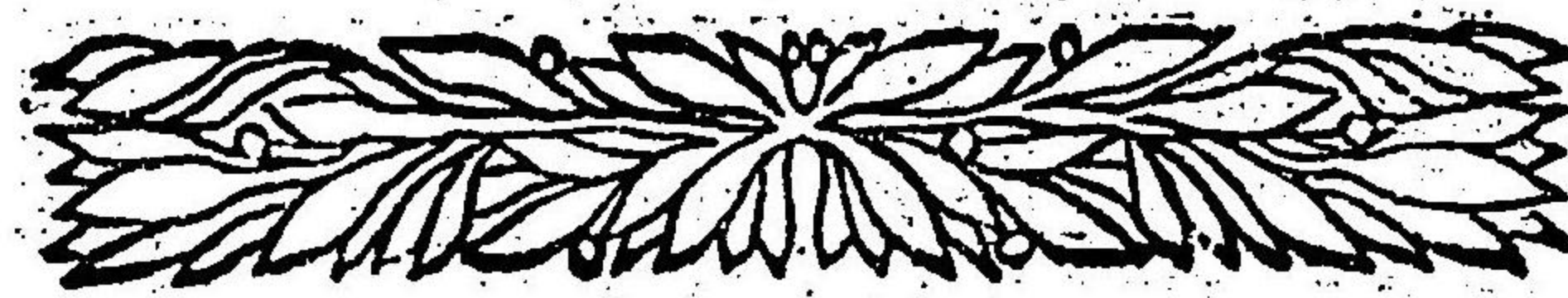




者ものと改あらめることになりました。
 伊い太た利りのヴエニスニスに行ゆけば、古ひか代しの建た築て
 物ものの狭せまい階はし段とを通とほる時とき、其その眞ま白しろな壁かべに、
 有あり名めいなテテアアンンが、此このククリリスストトフフの
 物もの語がたを畫かいた繪えを見みるのです。幾いく多たの星せい霜そう
 は此この名めい畫えを大だい分ぶん損そんひ、昔むかし美うらしうらかはつた色いろ彩さい
 も早はやや褪あせて、見みる影かげも無なくなつてゐます

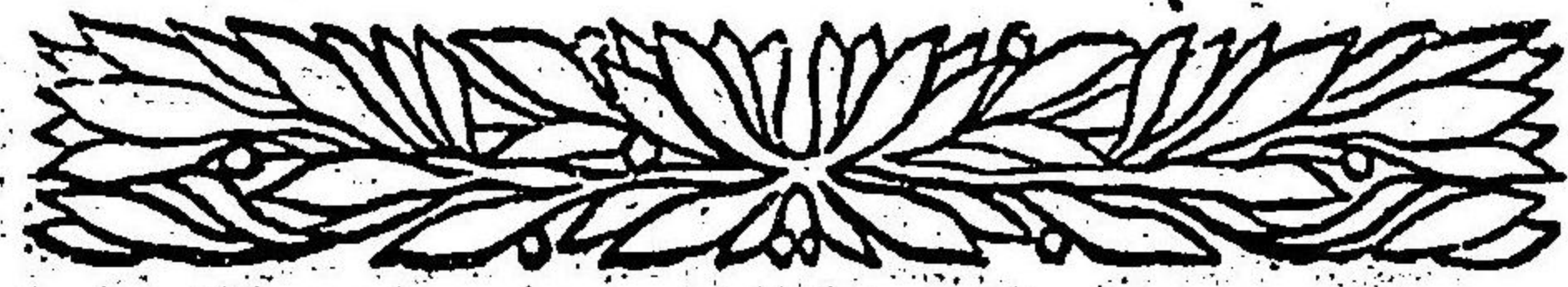
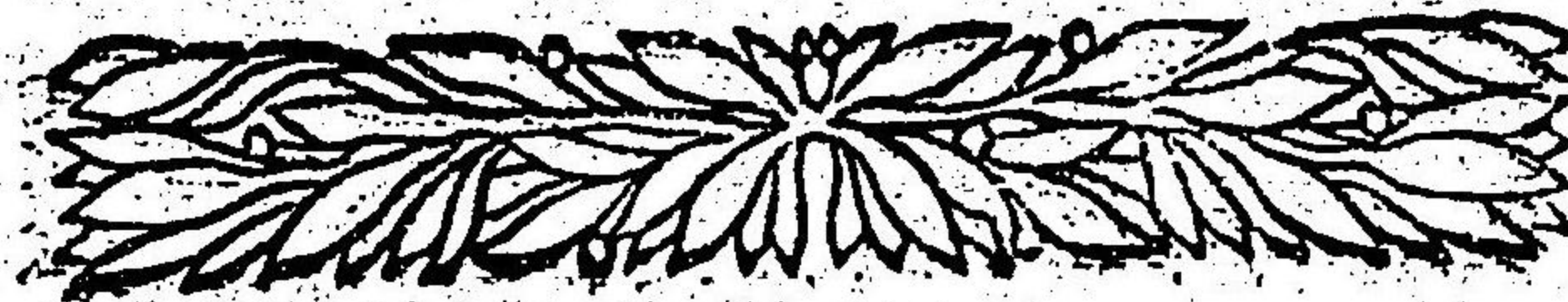


けれど、三さん百ひゃく餘よ年ねん後ごの今こん日にち、猶なほ其そのの畫えの輪りん
 廓わくだけは依よ然まに存ぞんつて居ゐて、大だい力りきのああり丈だけ
 けを揮ふるひ盡つくした勇ゆう者しやが、自おの分ぶんの負おふた不ふ思し
 議ぎな小こ兒ごを、驚おどきと怪あやしみの眼めを見み張はつて
 見み上あげて居ゐる其そののオオフフエエの顔かほに、肩かたの小こ
 兒ごが愛あいと同情じやうに充みちた眼めを注そいで居ゐる有あり
 様さまが、今いま猶なほ明あ白はくちに顯あらはれて居ゐます。言いひ傳つた

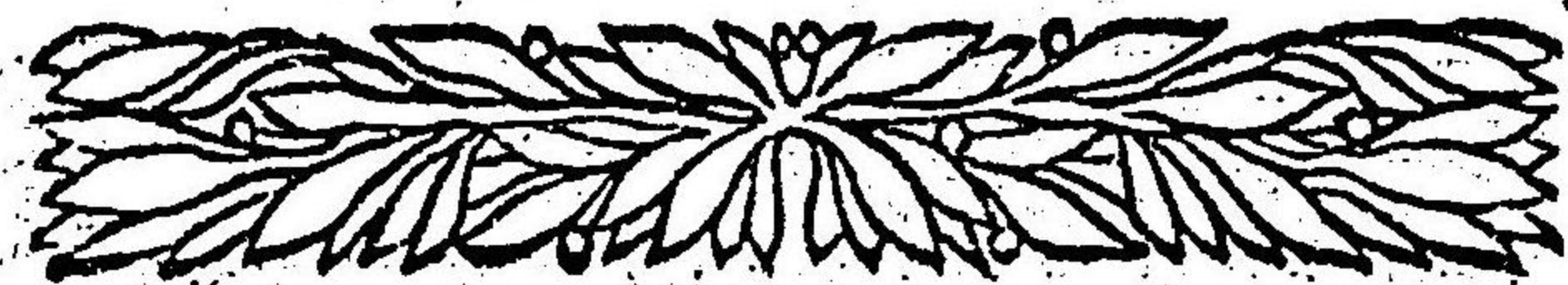


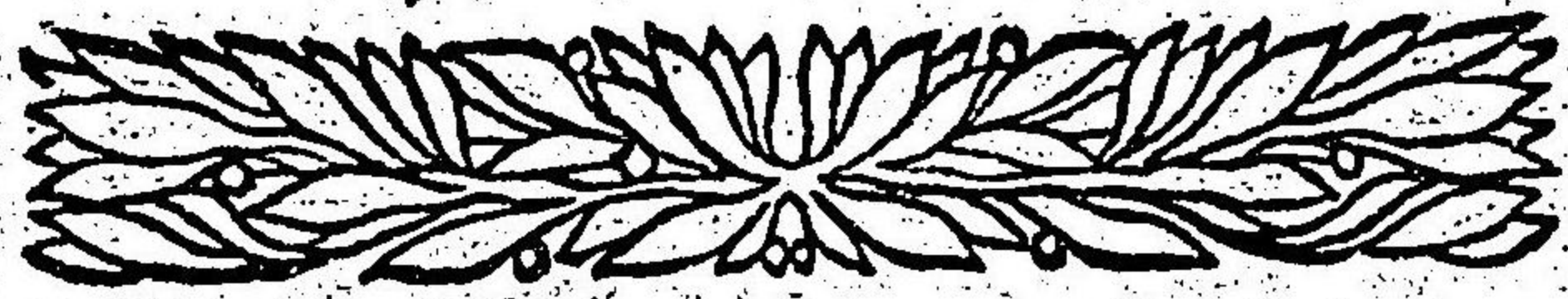


へによるとき、以前には此の美しい畫を見た
 者は誰でも、新たな力を上より戴いて、
 ごんな労働にも勇んで従事くここが出来た
 さいふことでもあります。現に此の畫の下の
 方を見るとき、羅甸語で「此のクリストファ
 の勇姿を仰ぐ者は、終日艱苦の爲に喪心し
 又は倦怠はつることなかるべし」と書きつけ

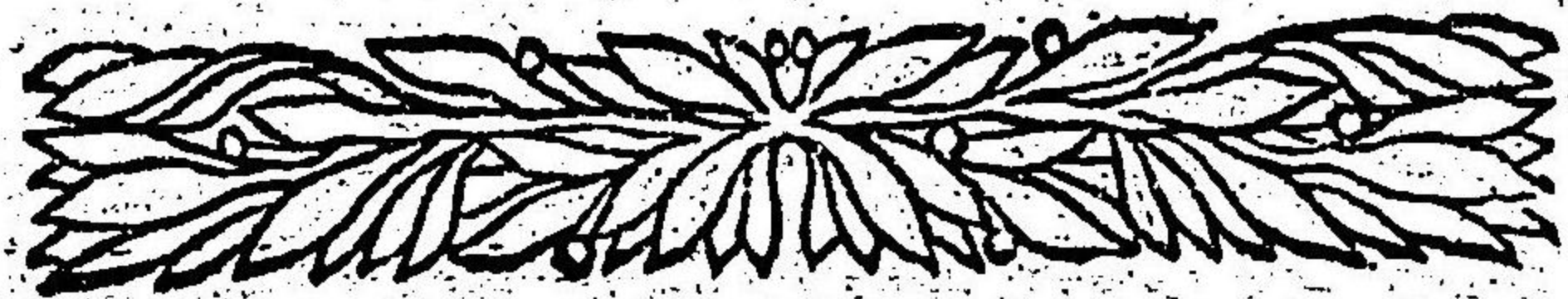


てあります。なぜ此の一枚の畫が斯くまで
 大なる力を持つてゐるかご申しますと、其
 の畫の中のオフエロが、初め濁流にのみ心
 を奪はれて居りました間は非常に苦しみを
 したけれど、肩の重荷が小兒ではなくて、
 實はキリストであるご氣付いた刹那、今迄
 に覺えない程な、新しい天來の力を戴いた

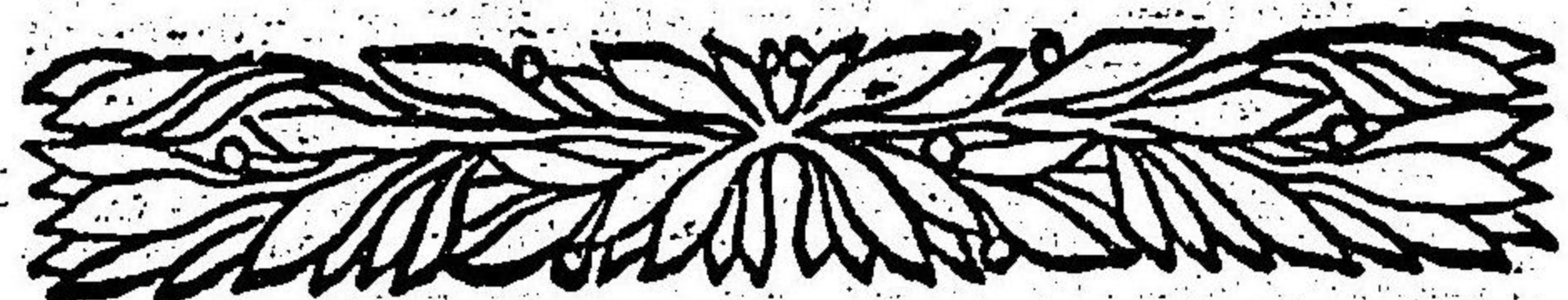




こいふ其事實が、たこひ傳説であるにして
 も實に深遠い眞理と、人の心の切に要求む
 る處を説明してゐるからであります。
 年々歳々、新たなクリスマスを迎ふる毎
 に、キリストに在る男女が、種々有益な事
 業に従事ひ、或ひは目に見えぬ主の名によ
 りて人々を扶け、充分稔つた收穫に勇まし

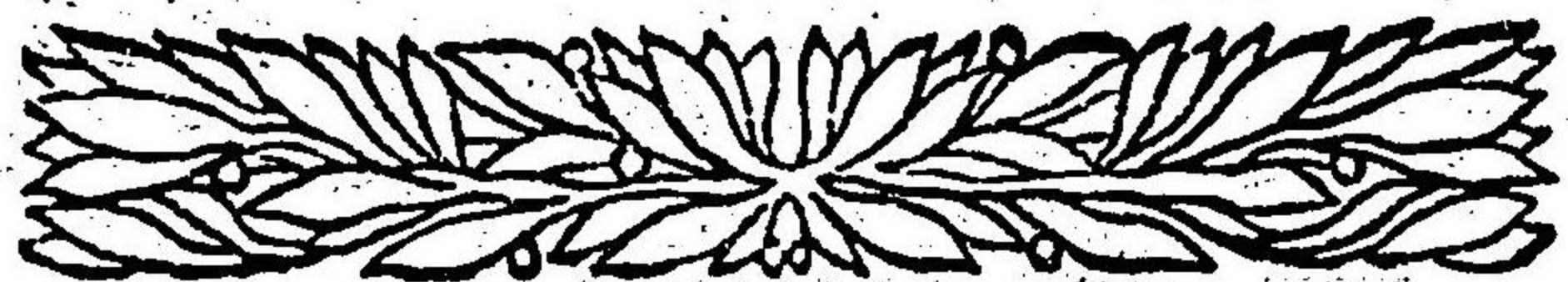
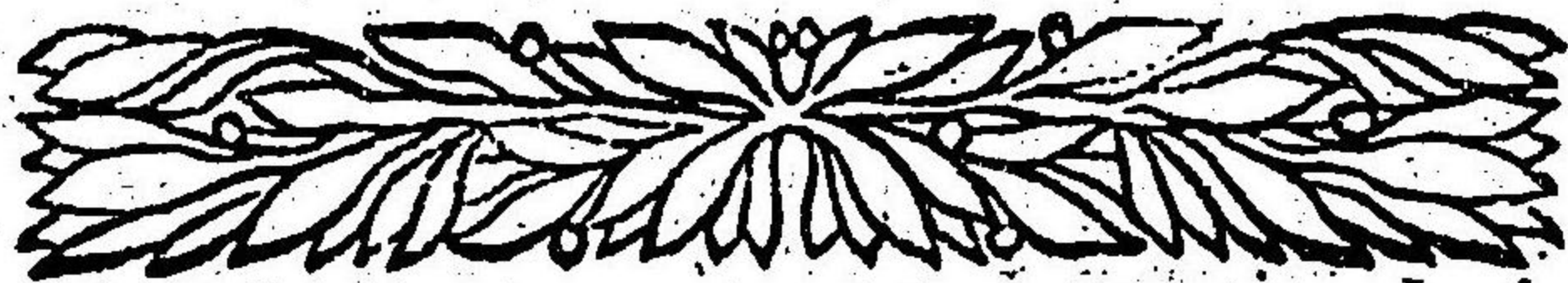


く働く者の益々多くなるを見るのでありま
 すが、全體人は大抵皆年の若い時には、如
 何な勞動に従事きましても、其の肩の荷が
 軽い様に思はれて、別段心にも懸りません
 けれど、年が漸次進み、又種々な經驗を重
 めるに従つて、内外より迫り来る悪の力の
 大なるを悟るに至れば、茲に初めて、全
 心

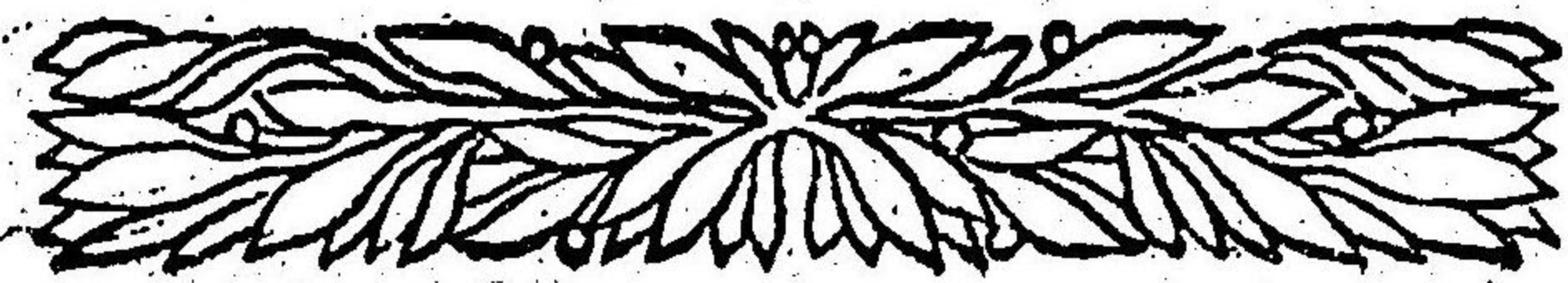


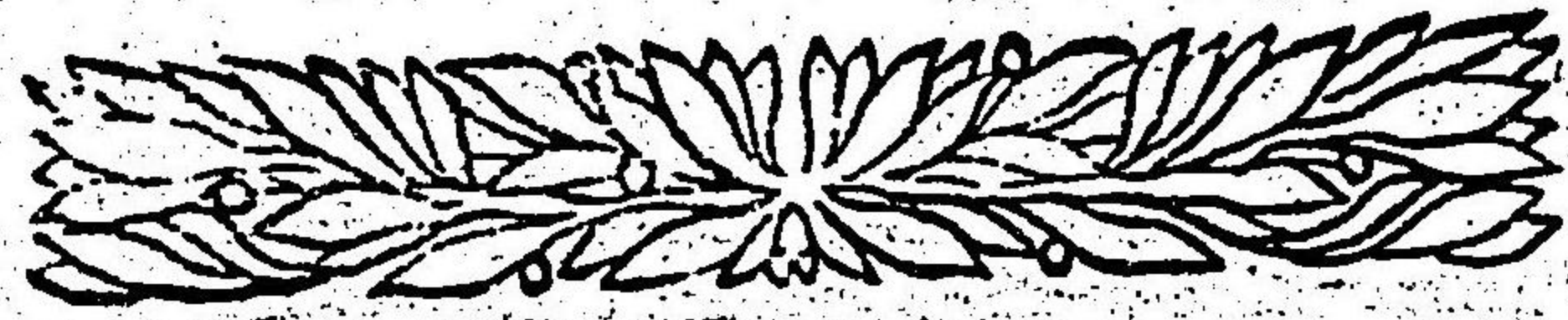


全力を注ぎ、必死の勇を奮つても、猶その
 重荷を支へるここが出来ない事がわかつて
 来るのであります。たこへば未信者の家庭
 に在つて、己一人神の道を守らうとするこ
 一家全體の不和合を來たすこ云ふ様な時に
 は、其の苦痛は眞に口に言ふ事の出来ない
 もので、自分一個の考へや力では、如何こ

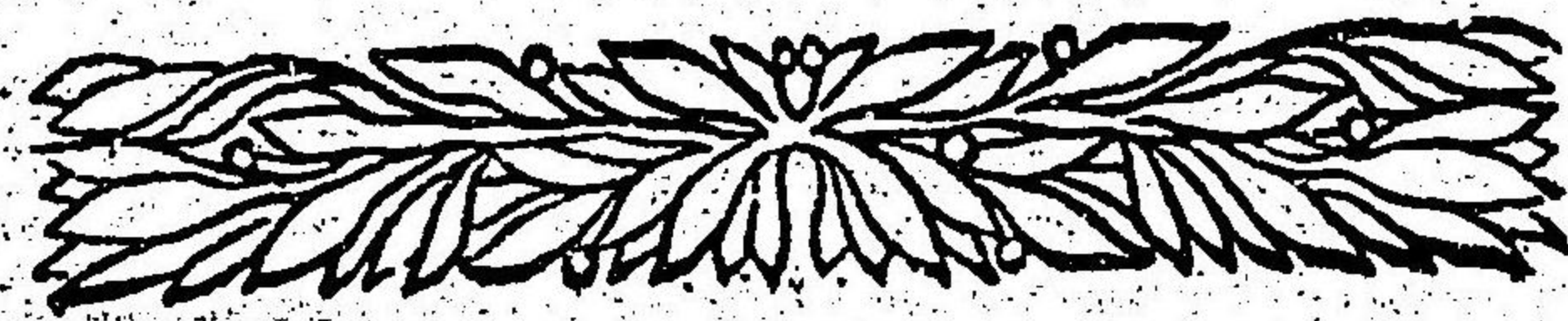


も出来ない場合に出で遭ふ時が必ず参りま
 す。其場合、其時こそ、クリストファー
 同様、お互にクリストイエスの幻を受けね
 ばならぬ時であります。
 私共は主の幻を見て後、其生涯が全く靈
 化した事を目のあたり見るのであります。
 私共は此のクリストフアーの様に、其の靈





眼にキリストを見て、盡し難き喜悅、永
 遠不滅の平安に充たされて、幾多の聖徒
 が反射して居る天來の妙なる靈光に浴する
 ここが出来るのであります。私は或信者が
 主の幻を見たので死の苦痛に打ち勝ち、無
 限平安を得て居られるのを、嘗て見た事が
 ありますが、是は如何しても忘れる事が出

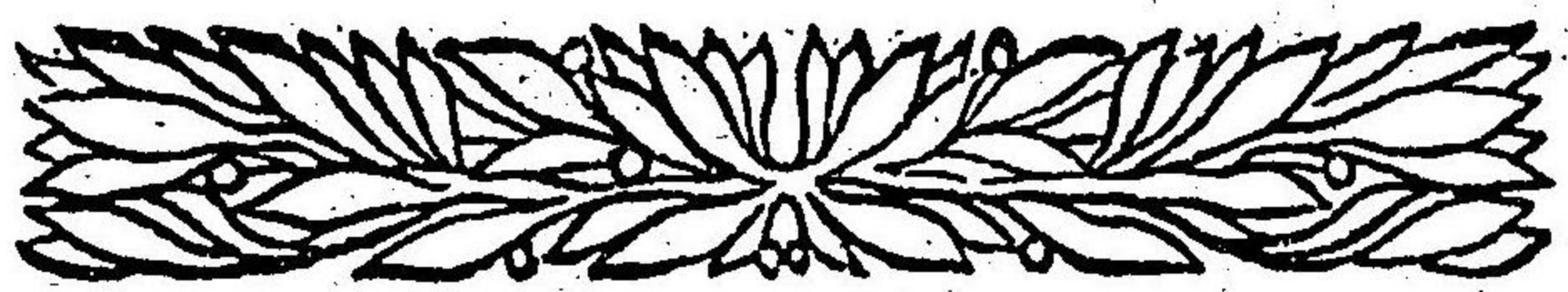
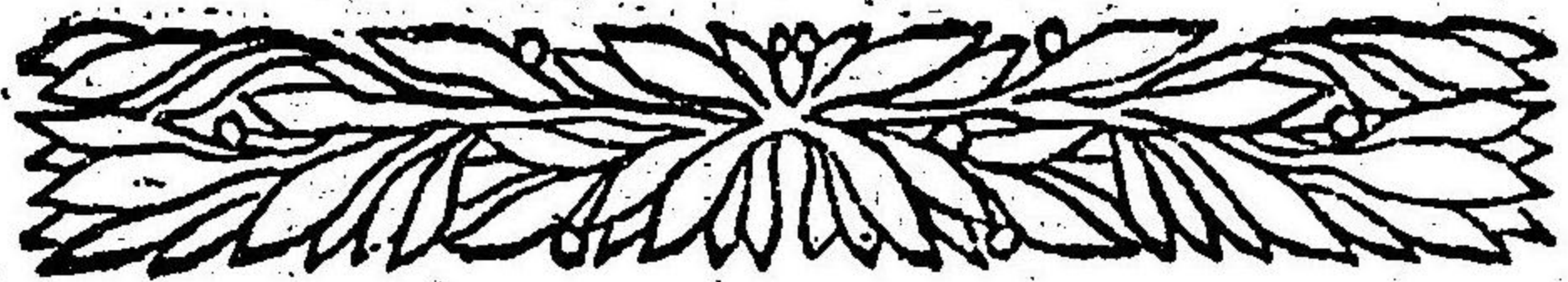


来ません。時は恰も春の暮で、冬枯の景色
 はあともなく、遠近の山々は若葉の緑を装
 ひ初てゐる。自分は四方の景色に見これ、
 日かげのごけき空を仰ぎ、我にもあらずあ
 こがれあるきました、思へば生命ある者
 程幸福な者は無い、生命あればこそ、斯か
 る妙なる眺めに心をやる事も出来るのだこ

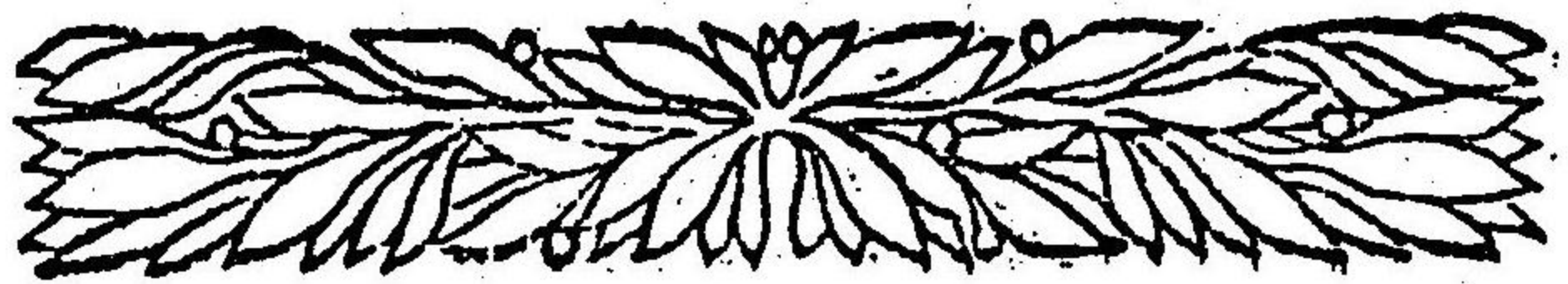


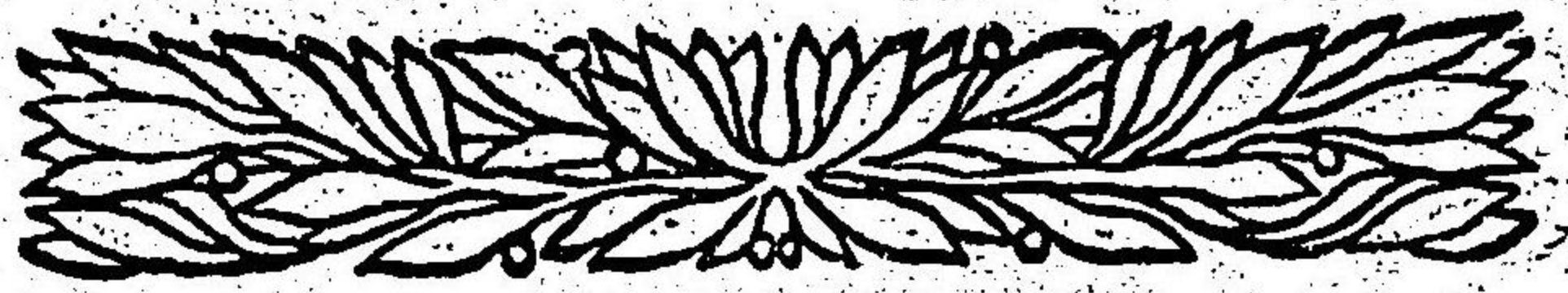


恍惚として居りましたけれど、やがて又眞面目な嚴かな心持になりました。こいふのは、今自分は將に世を去らんとして居る、一人の婦人を見舞に行く途中であつて、此の婦人は年が未だ若いのに、夫も子供も後に残し、一人此の世を去らねばならぬ境遇にあるので、如何にも氣の毒の感に堪えな

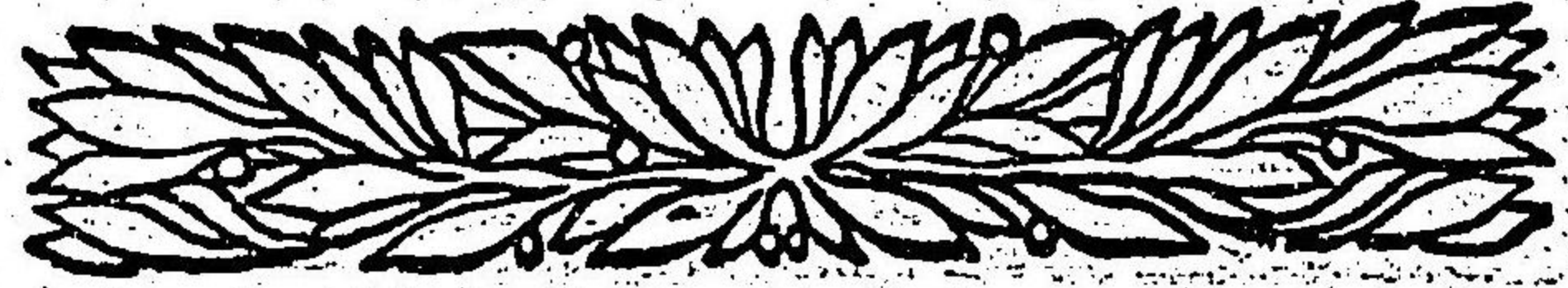


かつたからであります。其の家に着くや導かれて病室に這入りましたが、病人の顔を一見見ました時に、今迄自分の心を掩ふて居た憂愁の念は忽ち消えてしまひました。室内の窓は皆打ち開かれ新鮮い空氣が通つて居るばかりでなく、常春の平和の氣が、其の一室に充ちて居る様で、病める人の眼



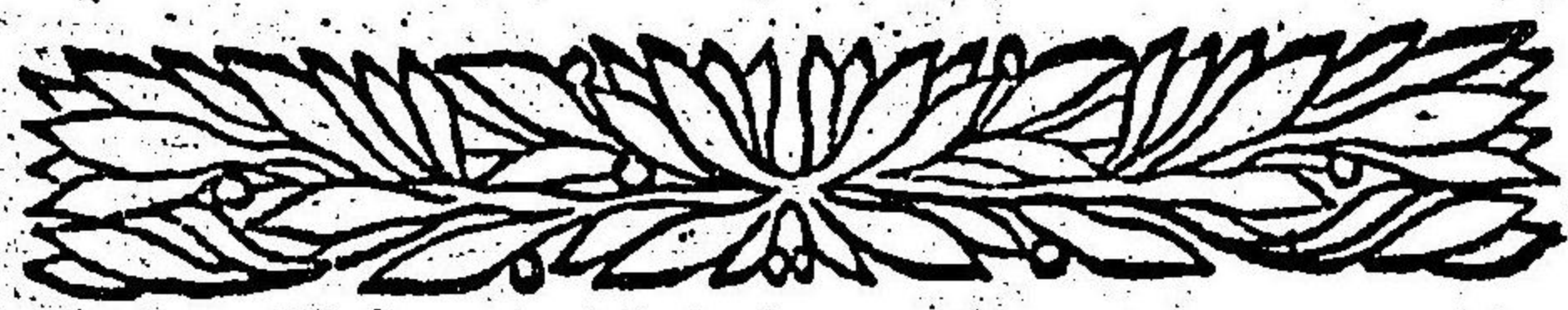


には、他の人の悟り得ない力ある勝利の色
 が仄見え、疑や恐怖の態は更になく、死の
 蔭の暗き谷間を通つて居る身であつても、
 彼の「我は世の光なり」と仰せ給ふた榮光の主
 イエスキリストの幻を、靈の眼で明白に見
 て居る故、早や力弱き人間の慰めの言葉な
 ぞ何の必要もありませんでした。其婦人は、

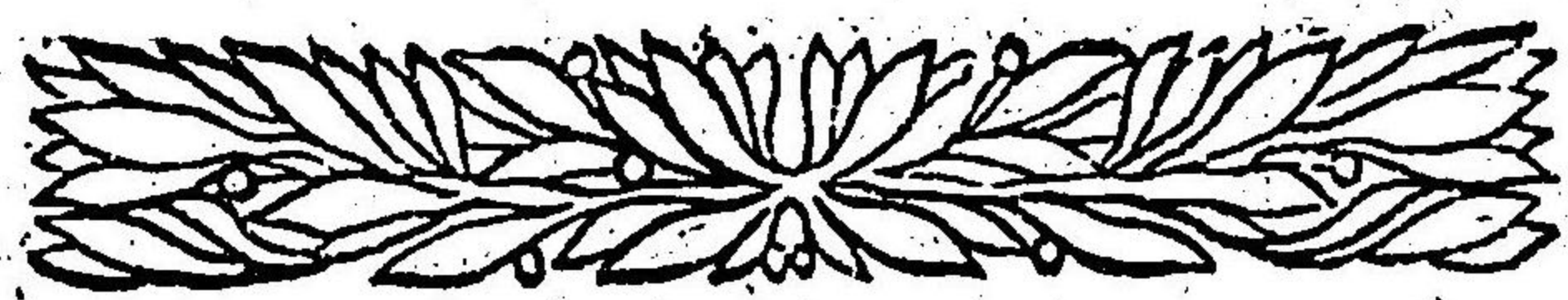
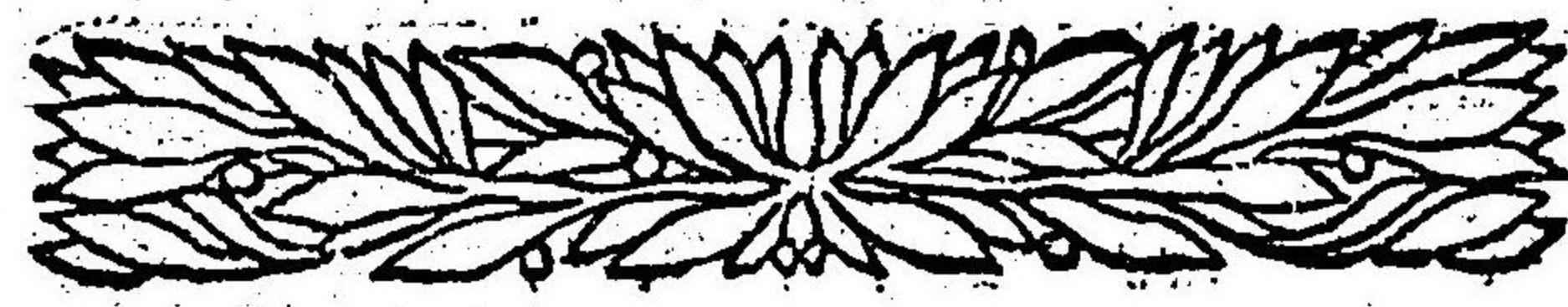


見舞に行つた友の手を握つて、反つて慰め
 の言を與へ、苦しい呼氣を吐きながら、こ
 ざれくに、「主キリストさへ見る事が出来
 れば、暗黒は去つて皆光となります」「二日主
 を見奉れば大山の如き困難も、憂も、朝靄
 の様に消えてしまひます」と申されました、
 其の六月の朝は長へに過ぎ、病める婦人も

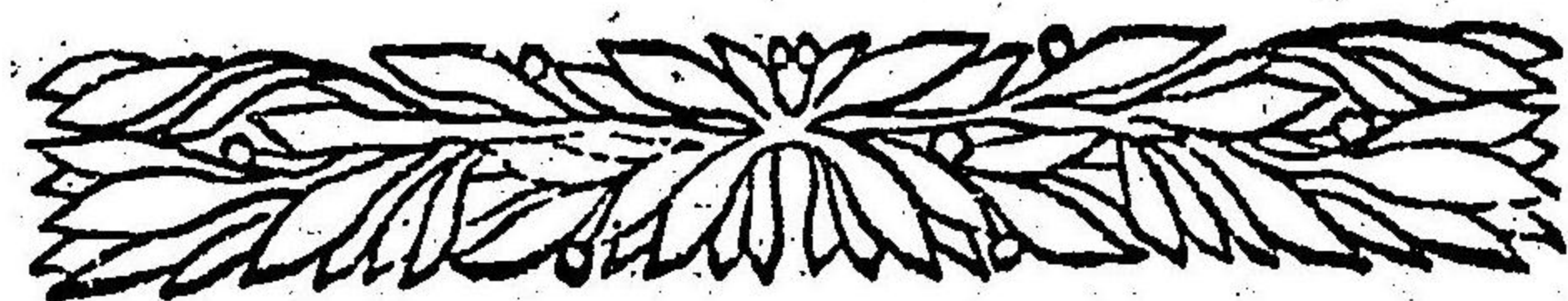


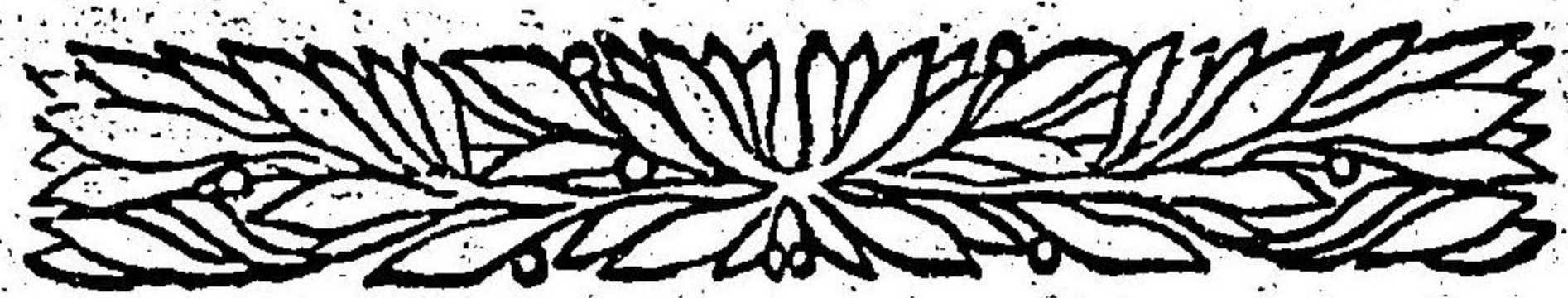


去つて歸らず、丁度黙示録に記してある様に、誰も數へる事の能ぬ程の、聖者の中に加はつて居ますけれど、其の臨終に語つた言葉の眞理は永久に消ゆる事なく、今猶多くの人の上に好き證となつて居ります。けるキリストの幻を一目見るここが、死の恐ろしき河波を渡りつゝある人に、其れ程



の力となる。さすれば、況してお互ひが種々の辛苦困難の重荷を擔ひ、険しい人生の行路を辿る時にも、主偕に在し、主半ば擔ひ給ふといふ信念は、これほど平和と力とを與へるか分りません。それでは此の尊い幻を誰でも見る事が出来るかといふ疑問に對して、聖書に擧てある澤山の例の中一二を





引證致しますれば、

(一) 十字架上に失せ給ひし主を慕ひ、涙な

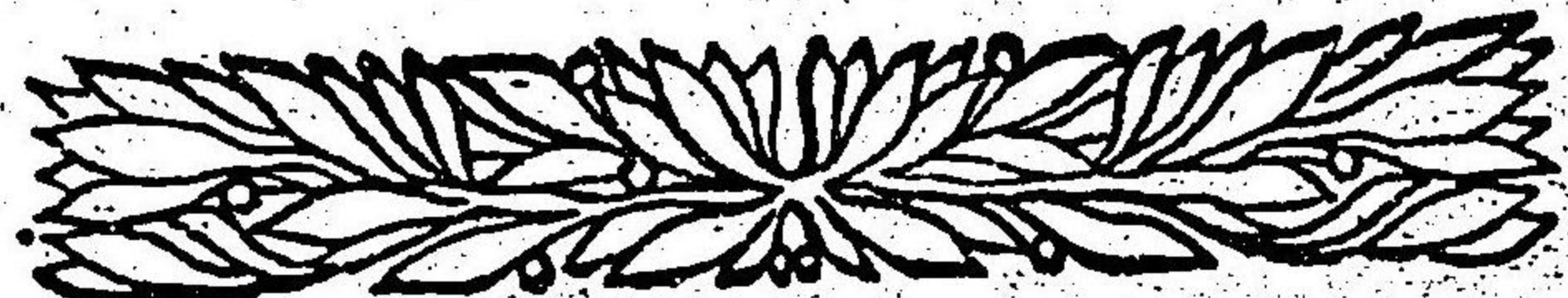
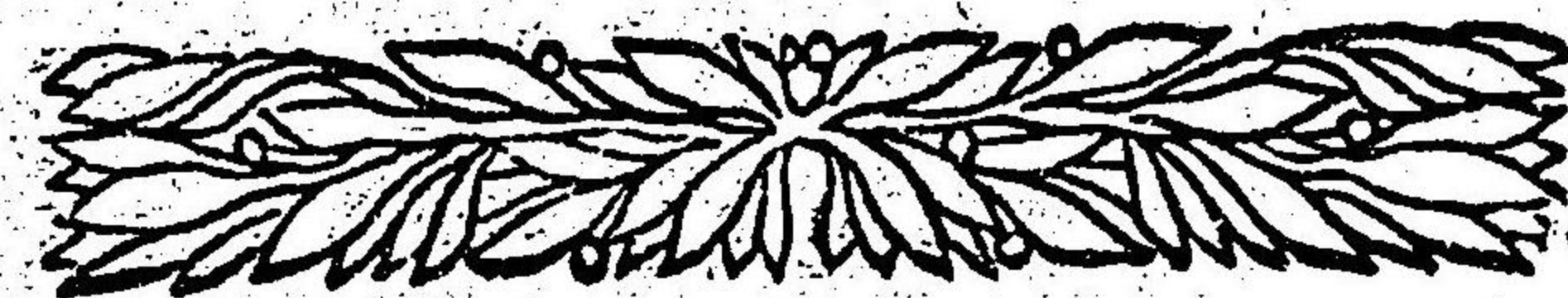
がらに其の屍を捜し求めて居りましたマ

グダラのマリアに主は顯はれ給ひました、

これが甦り給ひし主の最初の御姿でした。

されば我等も一切の世の物に心を奪はれず、

一心に主を慕ひ奉るならば、必ず主の御姿



を拜する事が出来る筈です。

(二) キリストの二人の御弟子が、切りに、

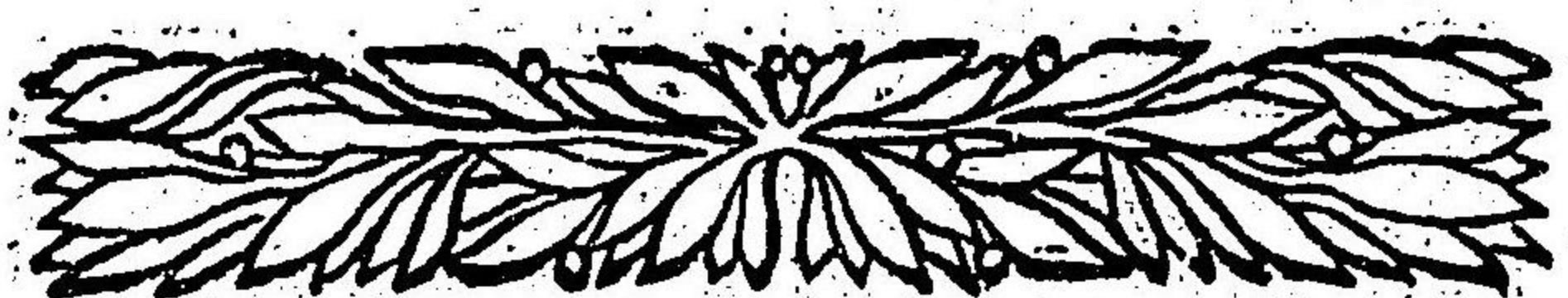
十字架にかゝり給ふた主の御身につき、

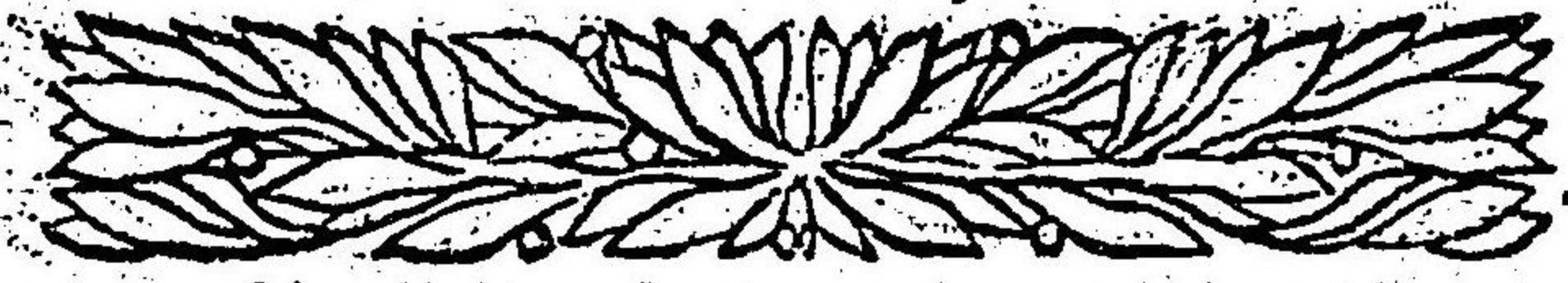
打語らひつゝ、なやみ悲しみながら、

マナごいふ邑に行きます途中にも主は顯

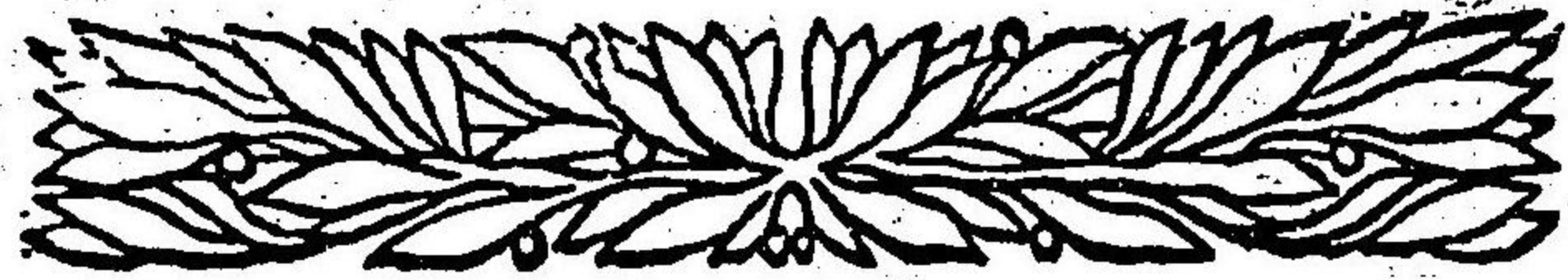
はれ給ひました。

されば我等も蔭口や怨言などに唇を汚さず、

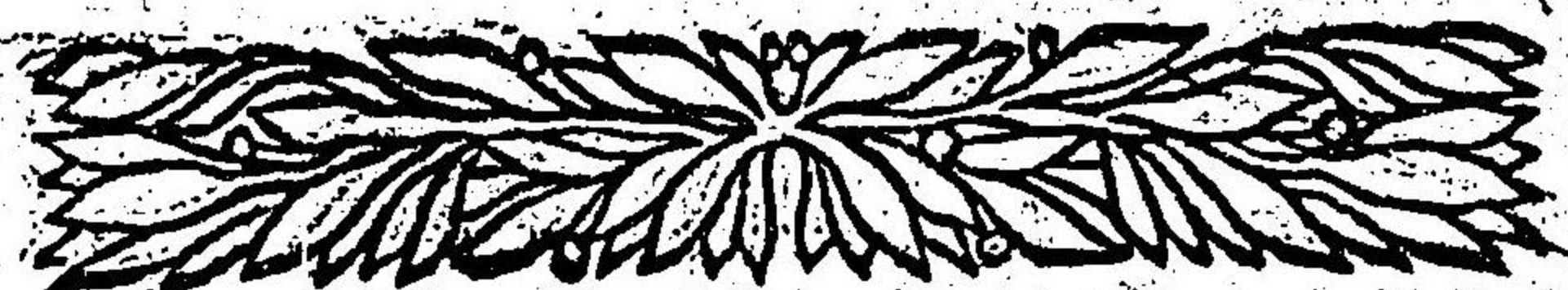




同^{おな}じ心^{こころ}の友^{とも}相^{あひ}集^{あつ}ふて、誠^{まこと}心^{こころ}より主^{しゅ}の事^{こと}につ
 いて語^{かた}り合^あひます時^{とき}は、主^{しゅ}の御^み姿^{すがた}を見^みる事^{こと}
 が出^で來^きる筈^{はず}です。
 又^{また}主^{しゅ}御^み自^じ身^み仰^{おほ}せ給^{たま}ふた聖^{せい}言^{ごん}に
 (三)「それ我^{われ}は世^よの末^{すえ}まで常^{つね}に汝^{なんぢ}等^らと偕^{とも}に在^あ
 るなり」
 この句^くもあ^あります。

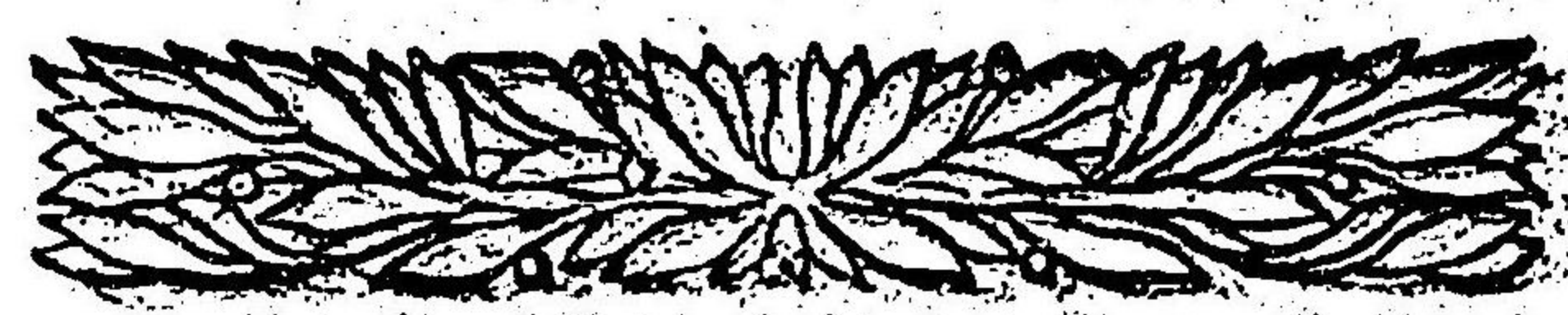


猶^{なほ}ヨハネといふ御^み弟^{でい}子^しが記^ししました書^{ふみ}
 にも
 (四)「我^{われ}自^{みづか}らを彼^かれに顯^{あら}はさん」
 ごキリス^{キリスト}トが仰^{おほ}せられた聖^{せい}句^くがあ^あります。
 此^この彼^かれに顯^{あら}はすの
 彼^か
 こは誰^{たれ}の事^{こと}を指^さすのであるかご申^{まう}せば、同^{おな}

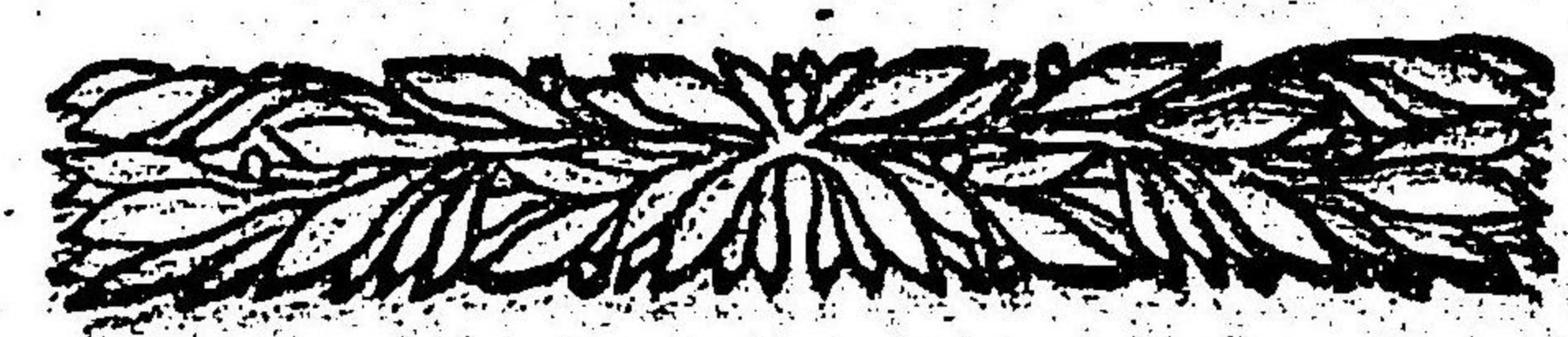


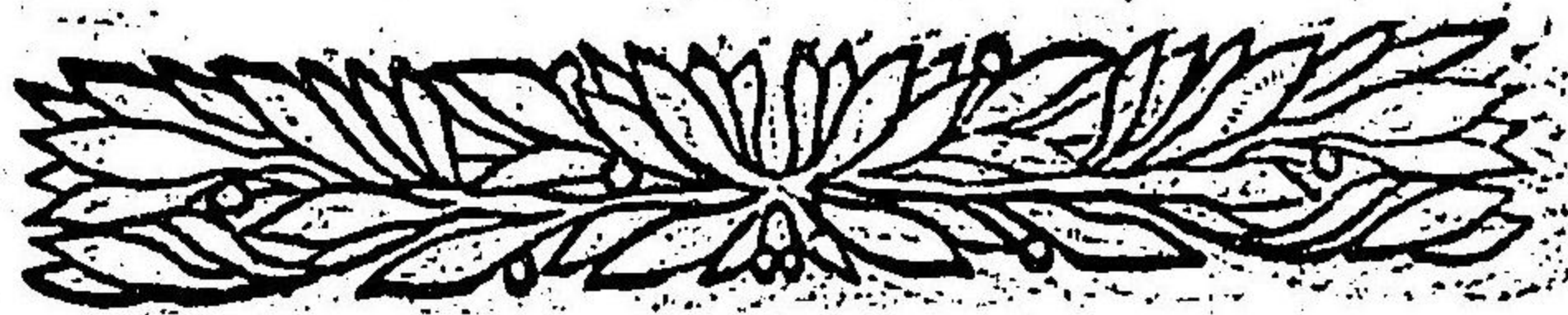


主イエスの聖言に
 「我が誠を守り、是を行ふ者」
 あります。即ち神の御旨を奉じ、其の御
 心を行ふ様に勵む者をさして、
 彼
 仰せられた事になります。斯かる人は祈
 に由つても、キリストの榮光ある幻を見る事

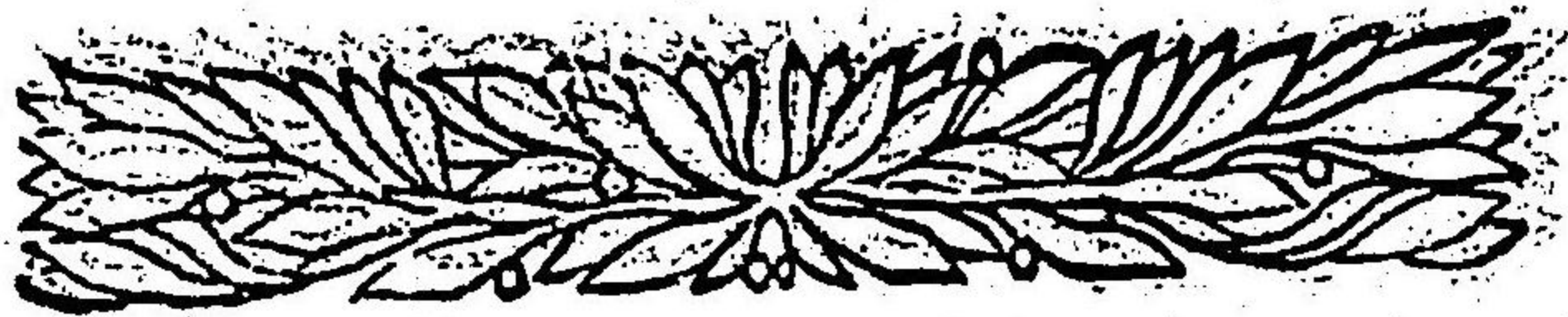
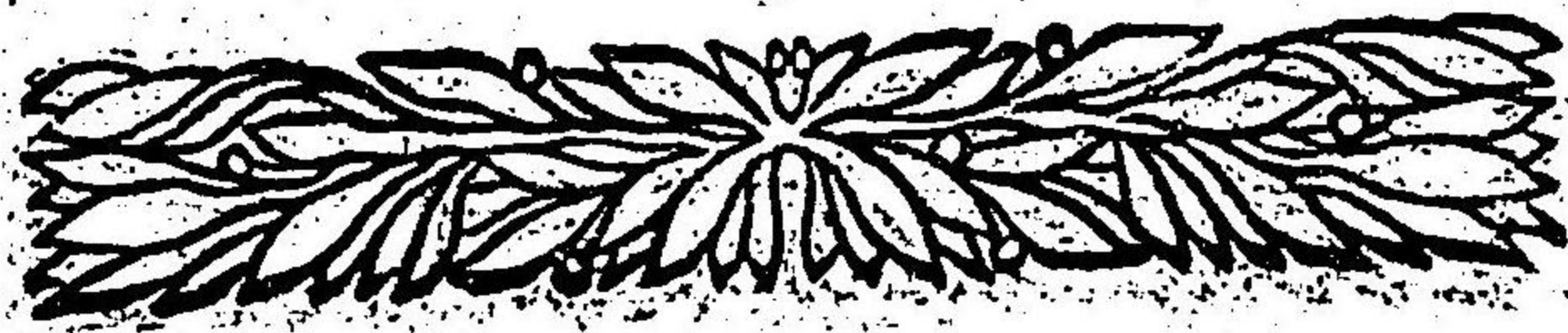


が出来る様に、其靈の眼を開いていたゞく
 事が出来ます。そゝなること、今迄はまる
 つきりかはつて、決して自分一人が骨折り
 苦しむのでなくて、キリスト常に我と偕に
 在して、共に骨折り共共苦しんで居て被下
 ると明白に悟りて、勞苦の中にも大いなる
 希望と慰めを得る事が出来る様になりま

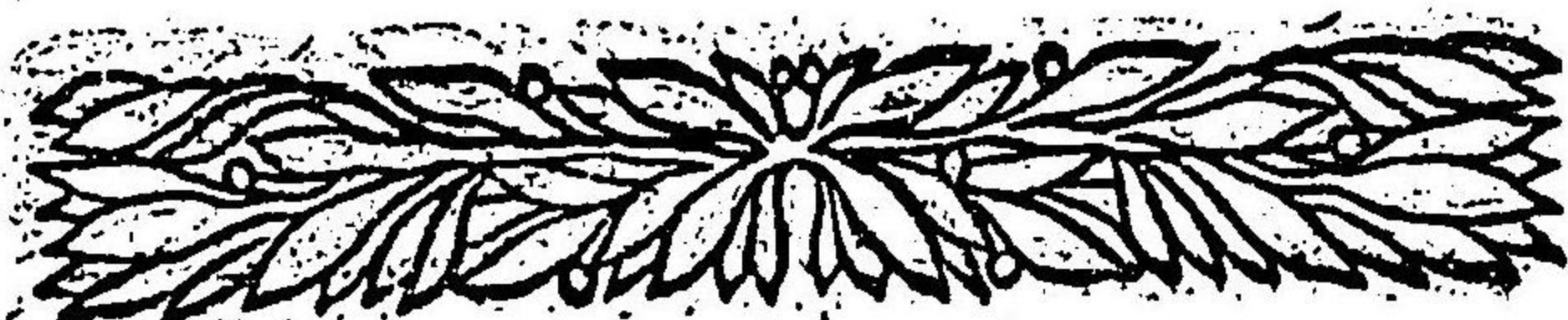


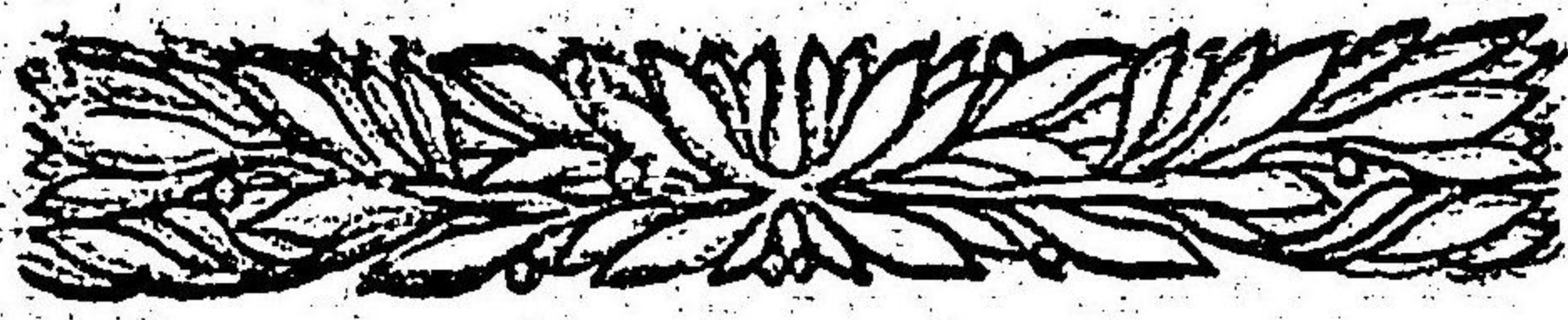


す。今又新たにクリスマスを迎へんごする
 にあたり、ごうぞお互ひはベツレヘムの厩
 に生まれました時、或ひは三十有餘年の御生
 涯の終り、カルバリー山頂、十字架の上に
 萬民の罪を負ひ給ふた時のキリストの御姿
 を、幻に見せていたゞくばかりでなく、今
 日只今測るべからざる愛と同情と權威とを



以つて、人間一人々々の魂に、神の愛とキ
 リストの救を物語つて居て下さる、其の
 御姿を幻に見奉る様に願ひたいと思ひます
 其様しますれば、今日衰へんごしてゐる信
 者の力を挽回し、其のねむれる信仰を鼓舞
 し、新たなる力をお互ひの靈性に注ぎ入れ
 て、活き且つ力ある活動をさせる原動力と

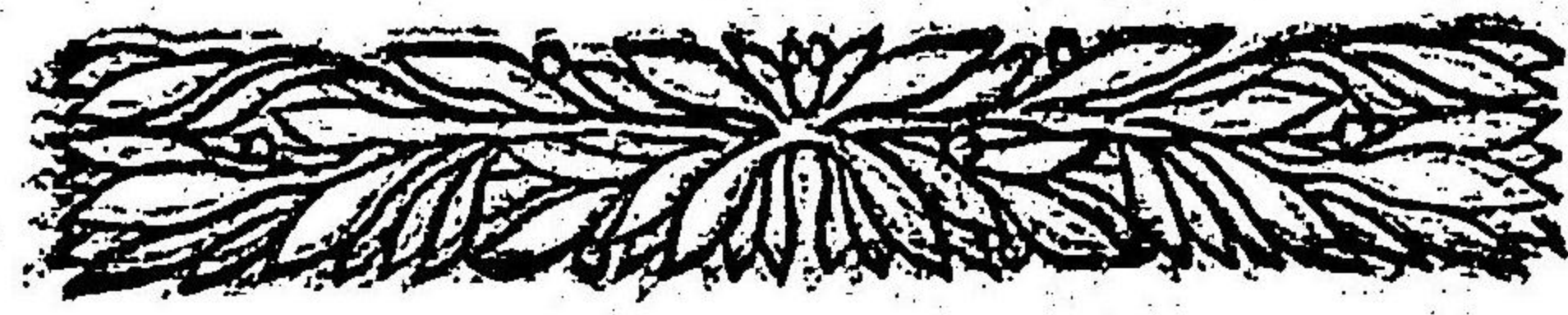


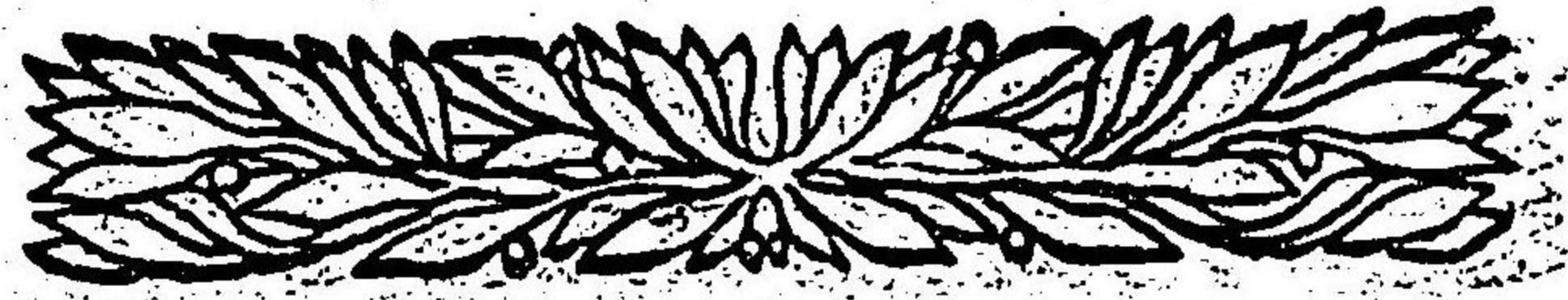


なるの香あります。されば現世に在つて、先づ神の國と其義
 じきとを求め、クリストの様に一生
 涯神に忠實に仕へようと思ふ者にさりては、
 此のクリスト程希望と歡喜とを與へるも
 のはありません。聖クリストの様に
 靈眼忽ち開くれば、今迄、又はより後も

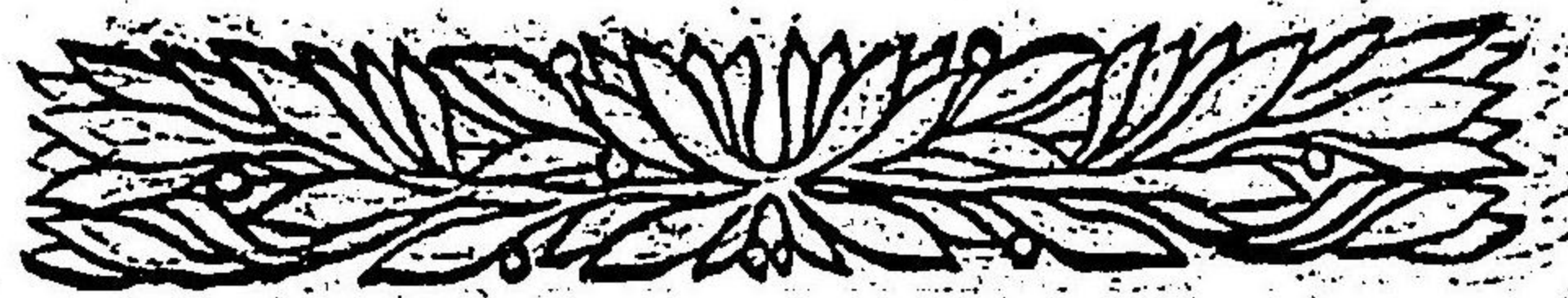
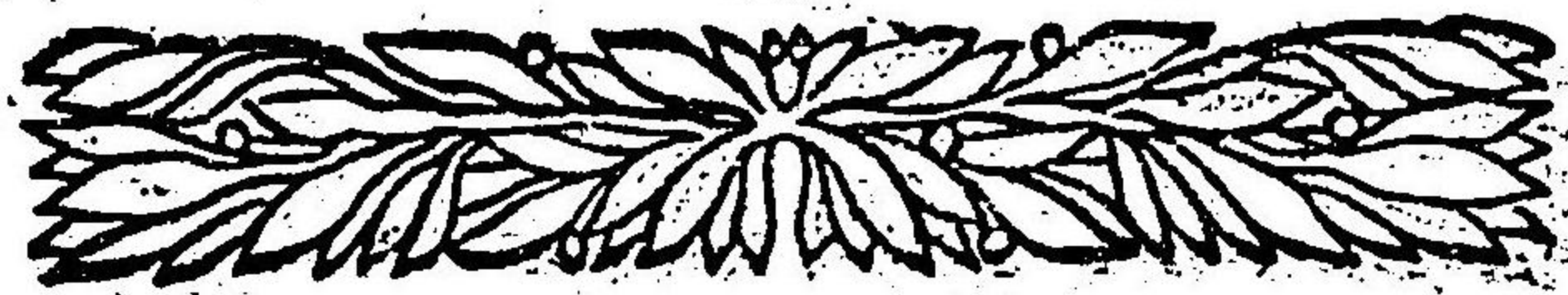


我々の身邊に纏綿つて來るいろいろな重
 荷、耐へ難いと思ふ程困難な重荷は、却つ
 て口にも筆にも盡さぬ非と祝福とを齎し
 て來る尊き恩賜であるといふ事が分るのみ
 ならず、是なしでは到底窺ひ知る事の出來
 ないまじり、天の幻を見る事を得て、如何程
 勇氣と喜悅とを受けける事が出來るか分りま





せん。主は實に在さざる時、又在さざる所の無
 い神様故、世間の人達はおろか自分の家族へ
 の者でも見ごめなない様な、僅かな善事、數
 ふるに足らぬ様な小さい愛の働きでも、主
 の眼を洩ることは決してありません。聖書
 の中にも、お互の如何程拙ない言行でも、



主の爲ご思つてする事ならば、必ず神の賞
 讃に預かるのであるといふ事を教へてあり
 ます。そはなんぢら我が飢ゑし時われに食はせ、
 渴きし時我に飲ませ、旅せし時我を宿ら
 せ、裸なりし時われに衣せ、病みし時わ
 れを見まひ、獄にありし時我に就ればな





是に於て義しき者、
 されに答へて云
 はん。主よ、何時
 なるの飢寒たるを見
 食はせ、又渴きたるに
 飲ましよや、何時
 主の旅したるを見て宿
 せ、又裸なるに衣
 せしや、何時主の病
 み又獄に在るを見
 爾に至りしや。主答
 へて彼等に曰は
 ん。我れ既に爾等に
 告げん、既に爾等



此の兄弟の最微者の一人に行へるは
 眼を我に行ひしなり。
 英國の西の海岸に、最微の年
 教者等が福音の種播を
 始めました時、其
 周囲の人々の頑迷無
 智を戦つて、始て絶
 望致しまして、岩角險
 しい海岸の突き出た
 處に行つて、日の出を
 待たずして居りました。

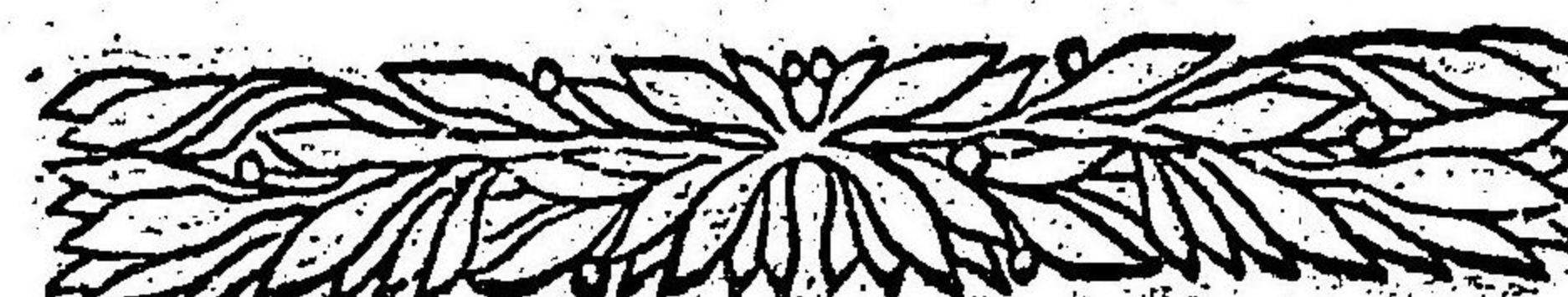




がて東天が紅を潮し、光明赫々やく太陽が
 夜の闇を打ち拂ひつゝ、威儀堂々こ昇つて
 來るのを見ますを、失望に萎へて居た双手
 は力に充ちて高く擧げられ、青ざめて居つ
 た顔には希望の色漲り、物むづかしく閉ぢ
 て居つた唇からは讚美と感謝とがあふれい
 ました。



これは太陽が此の世界を照すと等しく、
 義の太陽なるキリストも、其の翼に萬民の
 罪と苦惱とを癒す力を以つて、顯はれ給ふ
 に相違ないと思ひました。此
 の光景を周圍から眺めて居りました土地の
 人々は、自分等がひごく迫害して絶望させ、
 してやつたりと思ふて居たに、今や何かは





知らず喜びに溢れて居るさまを見て、大いに動かし、今迄これほど教へを聴いても悟る事の出来なかつた者共が、不思議に忽ち心開け、神の愛と救ひの福音を受け入れて、信者になつた者が澤山あつたりて、困厄の淵に陥つて居ながら、なほ喜び

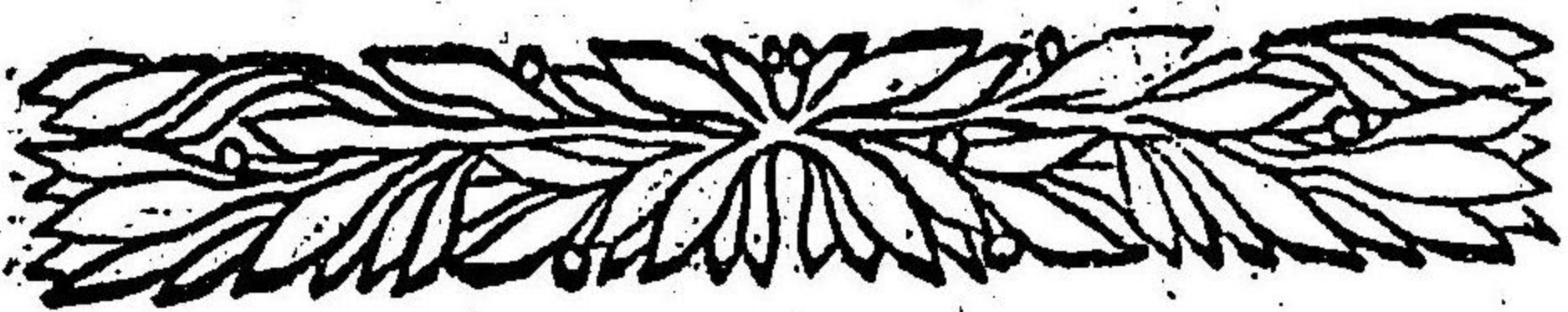


に充溢して居る、其顔から反射した光は、上の幻の妙なる光が、彼等土民の頑迷暗黒なる心の底の底迄射通したのであります。昔ばかりではありませぬ、今日もキリストの光に照らされて居る信者の崇高い、潔い、光ある生涯は、語らず、言はず、其の聲聞さるることも、偉大なる感化を多く





の人々に及ぼして、愈々廣く主の王國を地上に建設して居ります。御互ひ主の聖徒は一人も残らず、ごうぞ此のクリスマスを迎ふるに共に、クリストファールといふ名の意味を自分に應用して、各自がキリストを擔ふ者となり、古の聖者に劣らぬ忠實なキリストの僕となりたいたいものであります。



明治四十四年十二月十二日印刷
 明治四十四年十二月十五日發行

發行兼
發行所

東京市神田區小川町一番地

印刷者

横濱市太田町五丁目八十七番地

印刷所

横濱市山下町八十一番地

發行所

東京市神田區小川町一番地

大賣捌所

神戸市中山手通り三ノ外五番
日本聖公會出版社

同

大阪市西區京町堀三丁目

光

社

268

651

クリスマスカード

舶來各種

定價金三錢より
一圓二十五錢まで

カレンダー

各種

定價金十錢より
金一圓五十錢まで

レッツダイアリー

各種

定價金四十五錢より
二圓五十錢まで

レッツノートブック

各種

定價金三十錢より
金六十錢まで

其他文房具類各種

東京市神田區小川町

内外宗教文學書肆

普

光

社

